

畑と養分

校長 工藤 誠志

掃除をする姿をとおして、児童生徒の成長を感じました。

小学部5年生の教室を訪問した際の様子です。

教室内で給食の下膳したところに私が来たので、5年生のAさんは手を伸ばして「お願いサイン」を出ていました。床に落ちている牛乳を見つけて、指さしながら「拭いて」と私が言うと、担任からティッシュペーパーをもらってゴシゴシと拭いたのです。「すばらしい」と賞賛。続いて「もう少しあるよ。拭いて」と指さすと床をゴシゴシ。「すばらしい!!」さらに「もっと拭けるよね」と言うと、両膝をついて床をゴシゴシ。「すばらしい!!!」うれしくなった私は、「ゴミも捨てよう」と寄り添うとしっかりとゴミ箱まで移動し、ティッシュペーパーをポイッ。このすばらし〜い場面に居合わせてしあわせを感じた時間でした。



中学部3年生の生徒玄関の掃除活動を見学した際の様子です。

生徒玄関に活動を見学に行きました。さすが3年生です。生徒は黙々と仕事をしていますが、私はあることに気がついてしまったのです。「BさんエプロンOK、CさんエプロンOK、DさんエプロンOK、Eさんエプロンさんね〜ん!」と声をかけて、「身支度しっかりできるといいですね」と話してその場を離れました。

翌日の同時刻に、同じメンバーで掃除をしていました。そこで、私は指さし確認を始めました。「BさんエプロンOK!、CさんエプロンOK!、DさんエプロンOK!、EさんエプロンOK!!!」すると生徒全員が「やったー!」と声を上げて大喜びです。特に、Eさんは、大笑いをしながら右手の親指を立てていいねポーズを決めるほどでした。「お仕事、頑張ってください。」と私が言うと、4人がそろって「ハイッ」と、気持ちのよい返事を返してきました。

小学部4年生の掃除活動を見学した際の様子です。

給食前の時間に食堂脇の風除室でFさんとGさんがコロコロローラーを使って風除室のマットのゴミ取りをしていました。「何をしているのですか」と聞くと、Fさんが元気に「掃除です」と答えてくれました。「上手に掃除ができるんだね。」と私が言うと、Gさんが、「はいっ、ありがとうございます。」と照れながら答えていたのが印象的でした。



学校の畑にサツマイモを植えている学級がたくさんあります。6月になって濃い緑色の葉っぱが元気に伸びてきています。台所に忘れられていたサツマイモは、いくつか芽を出しますが、やがてはしなびて枯れてしまいます。サツマイモに蓄えられた養分と水分が足りなくなるからです。土もないから根も張れません。芽が伸びていくには畑が必要なのです。学校という畑で勉強したり活動したりしてしっかり根を張ってください。子どもたちの能力や才能の芽は、そのままでは大きくなりません。畑と養分が必要なのです。子どもたちにとって学校は畑です。養分は、授業や学校で行う様々な学習活動です。今はまだ小さいけれど一人一人がもっているすばらしい能力や才能の芽が大きくなるのが楽しみです。